

秋田真志(あきた まさし)

■略歴

大阪府大阪市出身

- 1986(昭和61)年 司法試験合格
- 1987(昭和62)年3月 東京大学法学部卒業
- 1987(昭和62)年4月 第41期司法修習生
- 1989(平成元)年4月 大阪弁護士会登録
- 1994(平成6)年4月 秋田真志法律事務所開設
- 2001(平成13)年4月 大阪弁護士会刑事弁護委員会副委員長
- 2003(平成15)年8月 日弁連取調べの可視化実現ワーキンググループ(事務局次長)
- 2004(平成16)年3月 大阪弁護士会刑事弁護委員会裁判員制度対応PT委員
- 2004(平成16)年4月 甲南大学法科大学院教授(刑事法実務等)
- 2004(平成16)年5月 日弁連取調べの可視化実現委員会委員(事務局次長)
- 2004(平成16)年7月 日弁連裁判員制度実施本部委員
- 2005(平成17)年5月 日弁連取調べの可視化実現委員会事務局長代行
最高裁判所刑事規則制定諮問委員会幹事
- 2005(平成17)年9月 大阪弁護士会裁判員制度実施本部副本部長
- 2006(平成18)年5月 日弁連取調べの可視化実現本部事務局長
- 2007(平成19)年4月 京都大学法科大学院非常勤講師(刑事弁護の実務)
(～2014年3月)
- 2008(平成20)年3月 取調べの可視化実現大阪本部副本部長
6月 NITA指導者研修講座修了
- 2012(平成24)年4月 大阪弁護士会刑事弁護委員会委員長(～2014年3月)
立命館大学法科大学院講師(～2014年3月)
6月 日弁連刑事弁護センター副委員長
日弁連取調べの可視化実現本部副本部長
日弁連刑事弁護関連研修等ワーキンググループ事務局長
- 2013(平成25)年3月 秋田・川崎・植田法律事務所開設
- 2014(平成26)年6月 日弁連刑事弁護センター事務局長兼研修小委員会担当副委員長
日弁連国選弁護本部委員
日弁連国際刑事立法対策委員会
日弁連刑事弁護センターアフター法制審PT座長
- 2015(平成27)年4月 事務所名を「しんゆう法律事務所」に改名
- 2016(平成28)年6月 日弁連刑事弁護センター事務局長
- 2017(平成29)年4月 最高裁判所刑事訴訟規則制定諮問委員会幹事
- 2017年(平成29)年6月 日弁連刑事弁護センター副委員長
- 2017年(平成29)年9月 SBS検証プロジェクト共同代表
- 2020年(令和2)年6月 日弁連刑事弁護センター委員長
- 2021年(令和3)年8月 日弁連取調べ立会い実現委員会委員
- 2022年(令和4)年6月 日弁連再審法改正実現本部委員
10月 大阪弁護士会司法改革推進本部刑事再審法改正実現PT座長
- 2024年(令和6)年1月 事務所名を「後藤・しんゆう法律事務所」に改名
- 2024年(令和6)年4月 大阪弁護士会再審法改正実現本部副本部長代行

日本刑法学会会員
ダイヤモンドルール研究会ワーキンググループ代表
SBS検証プロジェクト共同代表
先端的弁護による冤罪防止プロジェクト・アドバイザー弁護士

■主要著書等

- 「鉄道事故の再発防止を求めて－日米英の事故調査制度の研究」共著(1998年5月)日本経済評論社
- 「検察官による警察官調書の引写し問題－浮かび上がったワープロ調書の弊害」季刊刑事弁護29号77頁(2002年春)現代人文社
- 「少女供述の信用性－児童買春で被害児童の供述が信用できないとして無罪が言い渡された事例(大阪地判2002・12・13)」季刊刑事弁護35号72頁(2003年秋)現代人文社
- 「刑事証人尋問の研究－事例から反対尋問のテクニックを学ぶ」共著(日本弁護士連合会編「平成一四年版現代法律実務の諸問題」607頁(2003年8月)第一法規
- 「密室の扉を開こう－今こそ取調べの録画・録音による可視化を」大阪弁護士会刑事弁護委員会・刑弁情報28号2頁(2003年)
- 「刑事弁護のスキルアップのために」日本弁護士連合会編「平成一五年版現代法律実務の諸問題」573頁(2004年7月)第一法規
- 「取調べ可視化－密室への挑戦」共著・成文堂(2004年)
- 秋田真志・小林功武「実践の中で取調べの可視化を－被疑者ノートの試み」季刊刑事弁護39号82頁(2004年)
- 「シミュレーション公判前整理手続」季刊刑事弁護41号58頁
- 「公判前整理手続における証拠意見のあり方」季刊刑事弁護41号82頁(2005年1月)現代人文社
- 「オーストラリアの徹底した可視化事情」季刊刑事弁護41号146頁(2005年1月)現代人文社
- 「信楽列車事故－JR西日本と闘った4400日」共著(2005年5月)現代人文社
- 「証拠書類の取調べの問題点と弁護人のとるべき対応」季刊刑事弁護43号38頁(2005年7月)
- 「改正刑事訴訟規則と弁護活動」季刊刑事弁護44号68頁(2005年10月)
- 「取調べの可視化実現に向けての現状と課題」自由と正義56巻11号(2005年11月号)50頁
- 「裁判員裁判と反対尋問技術」自由と正義57巻7号(2006年7月号)43頁
- 「法廷弁護技術」共著・日本弁護士連合会編(2007年)日本評論社
- 「法廷弁護技術(第2版)」共著・日本弁護士連合会編(2009年)日本評論社
- 「弁護人の立場からみた公判前整理手続の現状と課題」刑法雑誌49巻1号93頁(2009年)
- 「実践！刑事証人尋問技術－事例から学ぶ尋問のダイヤモンドルール」共著・ダイヤモンドルール研究会ワーキンググループ編(2009年)現代人文社
- 「殺人罪－大人しい彼に殺意が芽生えるとき」(村井 敏邦／後藤 貞人編「被告人の事情／弁護人の主張－裁判員になるあなたへ」所収・法律文化社2009年)
- 「公判前整理手続と準備活動」(後藤貞人、四宮 啓、高野 隆、早野貴文編「裁判員裁判 刑事弁護マニュアル」所収・第一法規2009年)
- 「Winny開発者に逆転無罪判決！－価値中立のソフト開発行為と幫助犯の成立範囲」季刊刑事弁護61号119頁(2010年)
- 「最高裁、Winny開発者に無罪」季刊刑事弁護70号94頁(2012年)
- 「共同研究・刑事証拠開示のあり方」共著・判例タイムズ1387号53号(2013年6月)
- 「自白の任意性立証にどう対処するか」(後藤昭、高野隆、岡慎一編著「刑事弁護の現代的課題」所

収・第一法規)2013年9月
「新制度によって予想される刑事弁護の変化と取るべき対応」自由と正義65号22頁(2014年11月号)
日本弁護士連合会
「弁護人の立場からみた『新たな刑事司法制度』—法制化で問われる弁護実践」論究ジュリスト2015年
冬号106頁
「弁護人から見た裁判員裁判」法の支配177号74頁(2015年)
秋田真志・森 直也「シミュレーション 可視化時代の捜査弁護実践」季刊刑事弁護82号31頁
「性犯罪の情状弁護—被害者の声、加害者の更生—」日本弁護士連合会編「平成二六年版現代法律
実務の諸問題」549頁(2015年8月)第一法規
「刑事訴訟法の改正について」日本弁護士連合会編「平成二七年版現代法律実務の諸問題」443頁
(2016年8月)第一法規
「刑事司法の新時代がやってくる—平成二七年刑訴法改正について知ろう—可視化から司法取引ま
で」共著・日本弁護士連合会編「平成二七年版現代法律実務の諸問題」469頁(2016年8月)第一法
規
「Q&A平成28年改正刑事訴訟等のポイント」(小坂井久・青木和子・宮村啓太編・「捜査・公判協力型
協議・合意制度(いわゆる司法取引)と刑事免責制度の導入」を担当)(2016年8月)新日本法規
「新時代の刑事司法と刑事弁護の在り方」(刑法雑誌56巻3号27頁)(2017年)
「裁判員裁判時代における反対尋問技術」(浅田和茂先生古稀祝賀論文集[下巻]所収)(2016年)成
文堂
「弁護人の義務」刑事訴訟法判例百選[第10版]所収(2017年4月)有斐閣
「弁護人立会権の実践と展望—弁護人は取調室で闘えるか」(シリーズ刑事司法を考える第2巻「捜査
と弁護」所収242頁)(2017年8月)岩波書店
「弁護人の予定主張明示義務と予定主張のあり方」(浦功編著「新時代の刑事弁護」所収311頁)(2017
年9月)成文堂
「実践! 刑事証人尋問技術Part2—事例から学ぶ尋問のダイヤモンドルール」共著・ダイヤモンドルー
ル研究会ワーキンググループ編(2017年)現代人文社
秋田真志「シリーズ/取調べの『可視化』の『現在』—揺さぶられっ子症候群(SBS)をめぐるスウェー
デンの議論と可視化事情—日本でも冤罪多発?—揺らぐ医学神話による訴追が急増(その1)」(月刊大
阪弁護士会2017年10月号)
「揺さぶられっ子症候群(SBS)をめぐるスウェーデンの議論と可視化事情—日本でも冤罪多発?—揺
らぐ医学神話による訴追が急増(その2)」(月刊大阪弁護士会2017年11月号)
「揺さぶられっ子症候群(SBS)をめぐるスウェーデンの議論と可視化事情—日本でも冤罪多発?—揺
らぐ医学神話による訴追が急増(その3)」(月刊大阪弁護士会2017年12月号)
「揺さぶられっ子症候群(SBS)をめぐるスウェーデンの議論と可視化事情—日本でも冤罪多発?—揺
らぐ医学神話による訴追が急増(その4)」(月刊大阪弁護士会2018年2月号)
「揺さぶられっ子症候群(SBS)をめぐるスウェーデンの議論と可視化事情—日本でも冤罪多発?—揺
らぐ医学神話による訴追が急増(その5)」(月刊大阪弁護士会2018年3月号)
「司法取引に弁護士はどうか対応すべきか」(法学セミナー2018年1月号46頁)日本評論社
「SBS事案の公判段階の弁護活動ではどのような点に注意すべきか」季刊刑事弁護94号32頁(2018
年)
秋田真志・月田紗緒里「動画が違法認定の決め手となって無罪となった事例」季刊刑事弁護97号69
頁(2019年)
秋田真志・渕野貴生「採尿目的での留め置きと証拠の排除—両腕を抱えての長距離連行、
強制と任意の限界、重大違法と単純違法の限界」季刊刑事弁護98号107頁(2019年)

秋田真志・高橋早苗・関口和徳「黙秘・弁護人立会いを求めての不出頭と身体拘束－勾留請求却下、検察官準抗告棄却」季刊刑事弁護101号110頁(2020年)

秋田真志「シリーズ／取調べの『可視化』の『現在』－弁護人が受任する前に自白を取れ?!－警察の「新たな」取調べ手法が示す弁護人立会いの重要性」(月刊大阪弁護士会2020年2月号)

我妻路人・辻亮・秋田真志「[資料]弁護団から見たSBS冤罪・山内事件－大阪高判2019年(令和元年)10月25日の分析－」甲南法学60巻第1・2・3・4号243頁(2020年)

秋田真志「原審ではSBS理論に基づき乳児頭部外傷の原因として揺さぶりが認定されたが、控訴審では検察側医師証言に疑問があり、母親の供述する低位落下による可能性は否定できないとして、逆転無罪判決が言い渡された事例－検察側医師証言の信用性判断を中心に」(医療判例解説086号[2020年6月号]21頁)医事法令社

秋田真志「SBS神話とえん罪～揺さぶられる真実～－揺さぶられっ子症候群をめぐる医学的・法的諸問題－」刑法雑誌59巻1号63頁(日本刑法学会2020年)

秋田真志「低位落下による可能性を認めて逆転無罪とした事例」季刊刑事弁護103号47頁(2020年)

瀧野貴生、秋田真志、水木喜一郎「二時間で分かる!違法収集証拠－基礎から最新の議論まで－」共著・日本弁護士連合会編「令和元年度研修版現代法律実務の諸問題」443頁(2020年8月)第一法規

秋田真志「EUにおける取調べへの弁護人立会い－現在進行形の発展から学ぶべきこと」法律時報92巻10号74頁(2020年)

秋田真志「論争のある医学分野での医学文献の証拠能力等の取扱い－SBS仮説をめぐる法廷の経験から」刑事法学と刑事弁護の協働と展望－大出良知・高田昭正・白取祐司・川崎英明先生古稀祝賀論文集627頁(2020年)現代人文社

秋田真志「乳児揺さぶられ症候群(SBS)－仮説と冤罪事件－2つの逆転無罪判決から学ぶべきこと」冤罪白書2020・92頁(2020年)燦燈出版

秋田真志・笹倉香奈「取調べの弁護人立会権の制度と実践モデルの構想」法律時報93巻1号117頁(2021年)

秋田真志・高倉新喜「違法収集証拠排除と補強法則－覚せい剤自己使用の補強はどこまで必要か」季刊刑事弁護105号93(2021年)秋田真志「刑事法分野『最高裁の事実認定判断をめぐって』」法の科学52号148頁(2021年)

秋田真志「SBS仮説をめぐる論争とその現状～田中嘉寿子大阪高検検事論文が示すかみ合わない論争を克服するために～」刑弁情報51号22頁(2021年)

秋田真志「最高裁で無罪確定!SBS高裁逆転無罪判決に対する検察官上告が棄却」季刊刑事弁護108号175頁(2021年)

秋田真志「相次ぐSBS無罪判決が問うもの－弁護人の立場から」刑事法ジャーナル70号70頁(2021年)

秋田真志「プレサンス元社長に無罪判決－大阪地検特捜部の暗部が示した可視化と立会いの必要性(その1)」月刊大阪弁護士会203号40頁(2021年12月)

同(その2)同204号55頁(2022年1月)

同(その3)同205号68頁(2022年2月)

刑事弁護(三井誠・瀬川晃・北川佳世子編「入門刑事法[第8版]」196頁(2022年3月)有斐閣)

秋田真志「プレサンス事件での可視化媒体の取扱いをめぐる理論上・実務上の諸問題」季刊刑事弁護111号95頁(2022年)

秋田真志「SBS/AHT事案で相次ぐ無罪判決事例報告①」季刊刑事弁護111号110頁(2022年)

秋田真志「SBS/AHT仮説をめぐる日本と海外の議論状況」判例時報2532号89頁(2022年)

秋田真志「Winnie事件と中立的ソフト開発・提供における幫助の故意－弁護団からみた最決平23・12・19の判断に対する批判的検討を中心に」季刊刑事弁護116号47頁(2023年)

秋田真志「SBS/AHT仮説をめぐる冤罪事件と医学界における検証の必要性」日本臨床麻酔科学会誌
Vol.43 No.7, 566～.572(2023年)

秋田真志「【コラム】可視化実現への道『被疑者ノート』が果たしてきた大きな役割」小坂井久編集代表
『取調べの可視化 その理論と実践－刑事司法の歴史的転換点を超えて－』261頁・現代人文社
(2024年)

秋田真志「プレサンス元社長冤罪事件と取調べの可視化が突きつけた日本の刑事司法の課題」小坂
井久編集代表『取調べの可視化 その理論と実践－刑事司法の歴史的転換点を超えて－』463頁・現
代人文社(2024年)

■主な担当事件

信楽列車事故訴訟

Winnie開発者著作権幫助事件

大阪高検公安部長事件

大阪特捜部元副部長事件

車椅子放火事件

SBS関連事件(多数)

プレサンス元社長冤罪事件

スナック人違い無罪事件

正当防衛逆転無罪事件

今西事件